

申 請 調 書

【R3 年度教育改革推進事業経費・一般公募型】 b. 教育課程改善・試行プロジェクト

整理番号	(教務委員会記入)		
(プロジェクトメンバー)	所 属	氏 名	
代表者	産学連携イノベーションセンター・センター長	恵下 隆	
共同者	産学連携イノベーションセンター・副センター長	似内 映之	
	〃 ・特任助教	米田 則篤	
	〃 ・客員准教授	田代 優秋	
	経済学部・講師	木村 亮介	
	キャリアセンター・講師	本庄 麻美子	
	産学連携イノベーションセンター・アントレプレナーシップマネージャー	中川 貴照	
申請事業名	アントレプレナーシップ教育プログラム構築のための調査検証事業	申請額	700 千円
事業の概要	<p>本事業は、起業を志望する学生（以下、起業志望学生）が、起業家の生き方や精神（アントレプレナーシップ）を学ぶために必要な外部との交流連携を実践し、また本学において実現可能なアントレプレナーシップ教育プログラムの構築を検証する。</p> <p>令和3年4月末時点で、起業志望学生は新たに7名を加え約70名近く見られ、学内コワーキングスペース（旧栄谷会館）を拠点として活動している。このうち令和2年度には中澤怜士氏（教育学部3年）が株式会社wacode（代表取締役）を設立し、令和3年度中には観光学部4年生1名が法人化（合同会社）を計画している。さらには和歌山市内にある「コワーキングスペースNagomi Lab.」では、民間事業者と連携して複数名の本学生が企画運営し、学生の利用料を無料とする独自のサービスを提供している。前述の学生には、学外支援者（株式会社 和み、令和3年5月覚書締結予定）から協力・支援をいただいております、起業志望学生の活動の幅や場所が広がっている。</p> <p>これまでの教育改革推進事業では、こうした学外支援者から申し出のある学生指導、セミナー開催、資金提供、伴走支援などの連携依頼の受援制度として「覚書締結」を提案、実践した（令和2年度3社締結済み（うち地元企業1社）、令和3年度地元企業1社予定）。しかしながら、ここでの課題は、地域貢献を掲げる本学において、起業教育をテーマとして県内企業との連携協力が進んでいないことにある。</p> <p>そこで、起業志望学生へのさらなる支援体制の充実のために、①学外起業家との交流、特に和歌山県内の企業経営者との交流の場を実践し整備する。②本学のアントレプレナーシップ教育プログラム実現のために、他大学のアントレプレナーシップ教育や起業部などの課外活動を調査し検証する。</p> <p>①については、和歌山県内で起業している卒業生や「地域課題解決」に力を入れている公益社団法人わかやま産業振興財団の協力を得て、学外でのスタートアップ交流を実施し経営者との交流を図る。 ※大阪府の緊急事態宣言の影響により学内施設を使えない等を考慮し、学外との交流・連携には欠かせないオンライン会議サービス（ZOOMなど）を併用した交流の実践を検証する。</p> <p>②については、先進的で特徴のあるアントレプレナーシップ教育を行っている大学（九州大学、岡山大学、岐阜大学、武蔵野大学等の4大学）の事例調査を行い、本学としてのアントレプレナーシップ教育プログラム構築に向けて検討する。</p>		
事業のキーワード	スタートアップ、起業家交流、外部メンター発掘、オンライン交流 アントレプレナーシップ教育、		
各グランドデザインや教学マネジメント指針、本学中期目標・中期計画との関連性	<p>本学中期目標中期計画との関連性に、①大学発ベンチャーの設立を教育研究成果の一環と捉え、毎年2件程度の学生ベンチャー推奨認定を行い、学生ベンチャーの設立を積極的に支援する。②同窓会、後援会との連携強化及び機能強化に資する新たな基金の設定により、第3期中の寄附の受入件数600件以上を達成するとある。本事業は、学生への積極的かつ実践的な起業支援を行うことであり、和歌山県における地域産業や自治体からも求められている。また同窓会・後援会との連携や交流を行うことは、本学内の活動を卒業生に広く認知してもらう事により寄附への動機につながる。</p>		

プロジェクトの必要性	<p>年々増加する起業志望学生に対してそれぞれの課題に応じた支援や指導、助言は十分ではなく、学外との企業経営者との交流は必要である。</p> <p>他大学が実践しているアントレプレナーシップ教育のプログラムを調査することで本学での教育プログラム構築を図ることは、起業志望学生だけでなく全学生にとっても重要である。</p>
プロジェクトの新規性・発展性	<p>企業経営者との交流には、特に和歌山県内での起業家や卒業生起業家との連携を強化することは、将来的には本学の起業志望学生の学外メンターとして重要な役割を担ってくる。また、アントレプレナーシップ教育による起業家育成は、卒業後においても起業志望学生のメンターだけでなく、本学にとっても有力なパートナーになりうる。</p>
プロジェクトの実現性・全学の教育改革への波及効果	<p>本事業は、和歌山県にある国立大学としてのオリジナリティあるアントレプレナーシップ教育のプログラム構築に向けた取組みであり、地域での企業経営者や自治体との連携を強化するものである。起業志望の学生にとっても「課題発見、探求能力、実行力といった社会人基礎力」を培い、社会が求める課題解決人材の養成を促す。</p>
特筆すべき事項	<p>新型コロナウイルスによる感染症対策を配慮する。</p>

実 施 計 画 表

実施計画（ 新規 ・ 継続 ）	経費区分	積算内訳
<p>①学外起業家との起業・スタートアップ交流会の実施 (和歌山市内年2回開催予定、ゲストスピーカー各3名)</p>	<p>会場費 委託費 旅費</p>	<p>計：440千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会場使用料（和歌山市内：44千円×2回）88千円 ・外注費（交流会運営委託等：30千円×2回）60千円 ・打ち合わせ旅費（和歌山紀南エリア：1人×10千円×2回）20千円
	<p>謝金 旅費</p> <p>委託費 消耗品費</p> <p>消耗品費</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師謝金（3人×5千円×2時間×2回）60千円 ・講師旅費（3人×10千円×2回）60千円 ・制作費（ホームページ記事制作：33千円×2式）66千円 ・告知物製作費（デザイン費+印刷費：33千円×2式）66千円 ・ウェブ会議サービスZoom使用料（1年間ライセンス）20千円
<p>②アントレプレナーシップ教育や学生による起業部活動の取り組みを実施している大学への取組事例を調査 (4大学訪問予定)</p>	<p>旅費 旅費 旅費</p>	<p>計：260千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材旅費（岡山、日帰り 2人×20千円×1回）40千円 ・取材旅費（岐阜、1泊2日 2人×30千円×1回）60千円 ・取材旅費（福岡、東京 1泊2日 2人×40千円×各1回）160千円

【記入要領】

1. 実施計画欄は、実施内容を箇条書きでなるべく詳細に記入し、その項目毎に積算内訳等を記入すること。
2. 経費区分：「人件費」「旅費」「謝金」「設備品費(50万円以上の物品費)」「消耗品費(50万円以下の物品費)」「その他」
3. 積算内訳：実施計画の項目別に、経費区分の積算根拠を詳細に記入すること。
4. 設備品費(50万円以上の物品費)を要求する際は、見積書を提出すること。